



総務省

### 関西ICTイノベーションプロジェクト2017を開催

#### ～産官学の連携によるICT研究開発成果の紹介と「I-Challenge!」の公募説明～

近畿総合通信局は、7月20日（木）、近畿情報通信協議会及び大阪イノベーションハブと共催で、「関西ICTイノベーションプロジェクト2017」を開催しました。

本イベントでは、「戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）」における研究開発の成果発表と、平成29年度の「ICTイノベーション創出チャレンジプログラム（I-Challenge!）」支援制度の公募説明を行い、研究機関や中小企業の関係者など77名が参加しました。



講演する川上氏

まずはじめに、「学校検診データベース構築による地域健康増進と新規ヘルスケアニーズの探索の研究開発」について、京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻の川上浩司（かわかみ こうじ）教授が、全国の小中学校で実施される学校検診時に作成される健康診断票について、紙情報を電子化し、研究・統計などの研究利用を行うためのデータベース構築と自治体へのフィードバックについて発表されました。この事業は、できるだけ多くの学校からデータを収集することが重要であり、そのため、全国の自治体を訪問して個別説明を行い、連携体制を構築している現状も説明されました。

次に、「循環器疾患患者を対象とした在宅ヘルス・ケアシステムの研究開発」について、奈良県立医科大学産婦人科学の小林浩（こばやし ひろし）教授が、脳卒中などの在宅療養患者から「健康見守りセンター」にバイタルデータを送信することにより、コーディネーターが患者や医師に必要な指示・情報を伝えるクラウドサーバソフトの開発に向け、実証実験を行った結果を発表されました。この取り組みにより、病棟から在宅医療へのシフトを図り、地域包括ケアの充実に努めていきたいと説明されました。



講演する小林氏

また、平成29年度の「I-Challenge!」の事業概要、申請手続等について、総務省担当官から公募説明が行われました。

研究成果発表、公募説明会ともに参加者から多くの質問があり、研究成果や「I-Challenge!」への関心の高さが感じられました。

【詳しくは [総務省I-Challenge! ホームページ](http://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/ictR-D/ichallenge/index.html) をご覧ください】

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_seisaku/ictseisaku/ictR-D/ichallenge/index.html](http://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/ictR-D/ichallenge/index.html)



### 2017 近畿の情報通信

平成29年度における当局の重点施策及び情報通信の推進に関する支援状況をご覧ください。

<http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/calc/kinki2017.html>

平成29年度  
「情報通信の安心安全な利用のための標語」

近畿総合通信局長賞

## 大丈夫？ 世界が見てるよ SNS

（神戸市立真野小学校／兵庫県）



総務省

## IoT導入支援セミナーを大阪市で開催

### ～企業向けのIoTの導入・利活用及び人材育成のための取り組み～

総務省は、8月30日（水）、大阪市内において大阪商工会議所及び株式会社池田泉州銀行と共催して「基礎から学ぶ「IoT導入支援セミナー」」を開催しました。

このセミナーは、企業経営におけるIoT導入のメリットや導入時の注意点、さまざまな事例の紹介などを通じてIoT導入・利活用を支援するために開催したもので、中小企業の関係者など55名が参加しました。

なお、このセミナーは、総務省が今年度から実施する「IoT機器等の電波利用システムの適正利用のためのICT人材育成事業」の一環として、IoTの導入・利活用を目指す企業において活躍できる人材の育成を目的に全国各地で開催されているもので、大阪での開催は3番目となります。

はじめに、主催者を代表して、総務省情報通信国際戦略局（現：国際戦略局）技術政策課の山田和晴（やまだ かずはる）オリンピック・パラリンピック技術革新研究官から、「IoTは既存の業務の効率化だけでなく、今までにない新しい価値の創出にも役立つツールであり、多種多様な分野で活用できる。ビジネスにおける潜在的な課題にツールとしてのIoTをどのように使っていくか、そのきっかけにしてほしい」と挨拶がありました。



挨拶する山田研究官



ワークショップの様相

続いて講師から、第1章「IoTの基礎知識」として、データ収集からデータの蓄積・分析を行い、そのデータを活用することで業務改善に繋がることを農業、製造業、ヘルスケアといった様々な業種の事例により紹介しました。

第2章「IoTの技術・関連法制度」では、IoT機器が発する電波の干渉やデータの蓄積方法、法制度や情報セキュリティ対策などについて説明がありました。

また、温度/湿度センサーからデータを収集・蓄積し、無線LAN経由でスマートフォンからデータの閲覧や機器が操作できる実機デモも行われました。

最後に、第3章「IoTの活用」として、参加者がグループごとにワークショップを行い、自社のビジネス課題にIoTをいかに取り入れていくかなど、熱心な議論が行われました。



編集・発行

近畿総合通信局  
総務部総務課  
企画広報室

〒540-8795

大阪市中央区大手前1-5-44

大阪合同庁舎第1号館

TEL : 06(6942)8508

<http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/>